

## カリキュラムと教育方法

(2 単位)

専門 &gt; 教育学部 &gt; 基礎理解に関する科目等

2 年、3 年、4 年 通年(前→後)

週間授業

遠藤 貴広 (endo@u-fukui.ac.jp, 0776-27-8964 (2518)、総合研究棟 V (教育系 1 号館) 6 階)

### ■ナンバリングコード

05-TTM-206 教育学部 学校教育課程 / 道德, 総合学習, 生徒指導, 教育相談 [2 年次レベル]

### ■授業概要

カリキュラムと教育方法の改革をめぐる各種提言と附属学校園の教育課程研究を手がかりに、新しい時代に求められる学びのあり方をチームとして協働で探究する。学習指導要領をめぐる議論、新しい時代のカリキュラムや教育方法に関する様々な研究を検討しつつ、自分たち自身でも求められている学びのあり方を探る。また、3 年生が教育実習を行う附属学校で進められている教育実践研究において、どのような授業・学習が展開されているか、3 年生の報告を受けて具体的に考える。異コース異学年のメンバーからなるチームで、それぞれの学年の役割を担いながら、協働探究の成果をレポートやポスター等にまとめる。

### ■到達目標

学習指導要領を基準として各学校において編成される教育課程について、その意義や編成の方法を理解するとともに、各学校の実情に合わせてカリキュラム・マネジメントを行うことの意義を理解する。また、教育の方法と技術に関する基礎的な知識・技能を身に付ける。

### ■授業内容

第 1 回：前期オリエンテーション：カリキュラムとは何か  
(カリキュラム概念の諸類型を確認し、「意図されたカリキュラム」のみならず「実施されたカリキュラム」や「達成されたカリキュラム」「経験されたカリキュラム」についても、学年をまたいだチームで協働探究していくことを確認する)

第 2 回：これまでの学習経験を振り返って：前年度の個人最終報告書の検討  
(これまでの学習経験を綴った前年度の個人最終報告書をチームで協働検討しながら、メンバー相互の「経験されたカリキュラム」を確かめ合い、それぞれの学習経験を相対化させるとともに、今年度のチームでの「主体的・対話的で深い学び」「個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実」に向けた見通しを共有する)

第 3 回：学習指導要領改訂に関わる資料の検討  
(公教育の改革に関わる重要資料をチームで検討しながら、学習指導要領改訂をめぐる議論を中心に、カリキュラムと教育方法の改革に関する課題・論点を探る)

第 4 回：特色ある学校の教育課程編成とカリキュラム・マネジメント：附属学校園における教育課程研究を事例に  
(特色ある学校として附属学校園の教育実践研究に注目し、研究紀要や著作をチームで検討しながら、教育課程編成とカリキュラム・マネジメントをめぐる現代的課題を確認する)

第 5 回：カリキュラム研究に関する図書の検討  
(公教育の課題を知るための図書として、カリキュラム研究に関する図書をチームで検討し、カリキュラム論の視点から教育実践の課題を整理する)

第 6 回：戦後日本における教育課程改革：学習指導要領の変遷を中心に (学年別講義・演習)

第 7 回：教育方法論の史的展開 (学年別講義・演習)

第 8 回：教育課程の思想と構造 (学年別講義・演習)

第 9 回：社会における教育課程 (学年別講義・演習)

第 10 回：資質・能力の育成を支えるカリキュラムと教育方法 (学

年別講義・演習)

第 11 回：教育課程編成の原理と方法 (学年別講義・演習)

第 12 回：カリキュラム・マネジメントをめぐる論点 (学年別講義・演習)

第 13 回：カリキュラムをどう評価するか (学年別講義・演習)

第 14 回：指導要録の変遷と学力評価・学習評価の課題 (学年別講義・演習)

第 15 回：前期の振り返りと夏休みの課題の確認 (学年別講義・演習)

第 16 回：後期オリエンテーション：授業を構成する要素

(教育方法の基礎概念として、授業を構成する要素を確認し、チームで進める教育実践研究に位置づける)

第 17 回：授業をどうデザインするか：教育実習の経験を聴き合う  
(チームの先輩たちが教育実習で実践した授業を事例に、学習指導案の作成を始めとする授業づくりの課題をチームで具体的に共有し、実際に授業を実践する上で必要となる基礎的な指導技術を確認した上で、授業デザインのポイントを協働で探る)

第 18 回：教育方法の基礎理論に関する課題図書の検討

(夏休み中に読み込んだ教育方法の基礎理論に関する課題図書の内容をチームメンバーに紹介しながら、チームの協働探究を支える新たな視点を探る)

第 19 回：先輩の実践研究に学ぶ：前年度の教職学習個人誌の検討  
(卒業生が残した教職学習個人誌を検討しながら、先輩の長期にわたる実践研究の展開を跡づけ、自身の授業づくり・実践に向けて大学生のうちに何をどのように学んでおくべきかを再確認する)

第 20 回：カリキュラムと教育方法に関する先行研究の検討

(教育方法学研究とカリキュラム研究を中心に先行研究をレビューしながら、チームテーマをめぐってどのような議論が蓄積されているかを確認する)

第 21 回：新たなカリキュラムと教育方法の展望①：チームポスターの構想

(新たなカリキュラムと教育方法の展望を、チームとしてどのようなポスターで表現するかを構想し、チーム考察の根拠となる資料を整理する)

第 22 回：新たなカリキュラムと教育方法の展望②：チーム考察の検討

(新たなカリキュラムと教育方法の展望に向けて、チームとしてどのような考察を示すか、その考察を支える学術的根拠が揃えられているかを確認しながら、カリキュラムと教育方法の基礎理論の再検討を行う)

第 23 回：新たなカリキュラムと教育方法の展望③：チームポスターの検討

(一旦まとめ上げられたチームポスターを改めて検討し、チーム考察の根拠として用いている教育方法学研究とカリキュラム研究の知見に問題がないか、最終確認を行う)

第 24 回：協働探究の振り返りと公開クロスセッションの準備：新たな学習評価の展望

(チームでの協働探究の歩みを振り返り、カリキュラムと教育方法について本授業を通じて考え直したことは何か、それはカリキュラム論や教育方法論として本授業でどのような視点を得たからなのかをチームメンバーと確認し、本授業で学んだことの意味を鮮明に伝える言葉を探る中で、「学びの履歴としてのカリキュラム」「学習経験の総体としてのカリキュラム」を捉え直すことを自身の学習経験を対象に具体的に言い、そのプロセスを新たな学習評価の形として位置づけて評価観の転換を図る)

第 25 回：協働探究の成果を広く伝える：公開クロスセッションでの発表

(中学生・高校生や現職教員も交えた「教育実践研究 公開クロスセッション」で今年度の協働探究の成果を伝え、普段の授業よりも異質性の高いメンバーからなる小グループで、カリキュラムと教育方法について学んだことを確かめ合う)

最終課題：1 年間の振り返りと今後の展望を探る：個人最終報告書の作成

(以上の協働探究の歩みを報告書にまとめ、学習成果を確認するエビデンスとする)

### ■準備学習（予習・復習）等

個人レポートの作成と改訂。

テーマに関する文献・資料の収集・検討。

チームポスターの作成とそのための打合せ。

### ■授業形式

【授業形式】

講義、演習

学年とコースの異なるチームをベースにした省察的な協働探究を重ねる。

個人レポートを持ち寄ってチームで議論し、その議論を踏まえてレポートを改訂する。

サイクルごとにチーム協働探究テーマを決め、チームレポートないしはポスターを作成する。

これらレポート群を読み直すことで、探究の足跡を振り返り、学期ごとに個人報告書を作成する。

報告書はチームの異なるグループでのクロスセッションで検討を行い、そこでの議論を踏まえた改訂版を e-ポートフォリオに蓄積する。

### ■成績評価の方法

サイクルごとに提出される個人レポート、チームでの協働探究の成果をまとめたチームポスター、以上の取り組みを振り返って作成した個人報告書を基礎資料として成績評価を行う。

### ■教科書・参考書等

①a 文部科学省『小学校学習指導要領（平成 29 年告示）解説 総則編』東洋館出版社、2018 年。

①b 文部科学省『中学校学習指導要領（平成 29 年告示）解説 総則編』東山書房、2018 年。

①c 文部科学省『高等学校学習指導要領（平成 30 年告示）解説 総則編 一平成 30 年 7 月一』東洋館出版社、2019 年。  
(取得希望免許に合わせて選択)

②田中耕治・水原克敏・三石初男・西岡加名恵『新しい時代の教育課程（第 5 版）』有斐閣、2023 年。

③田中耕治・鶴田清司・橋本美保・藤村宣之『新しい時代の教育方法（第 3 版）』有斐閣、2024 年。

④石井英真『授業づくりの深め方：「よい授業」をデザインするための 5 つのツボ』ミネルヴァ書房、2020 年。

⑤石井英真『カリキュラム・オーナーシップ：教育課程改革の設計図』教育開発研究所、2026 年。

⑥石井英真『今求められる学力と学び』放送大学教育振興会、2026 年。

### ■その他注意事項等

教師の専門的な実践力を培う福井大学教育学部の中心的な科目である。

世代を超えた互恵的な探究のスパイラルを実現させるために、「教職入門」「カリキュラムと教育方法」「学校教育実践研究」「教職実践演習」は同じ時間帯に同じ教室で授業を行うことを基本とする。

### ■キーワード

Public Learning, Collaborative Inquiry, Generational Cycle, Authentic Assessment

### ■アクティブ・ラーニング

アクティブ・ラーニング科目

### ■授業形態

対面・オンライン併用授業ーリアルタイム・オンデマンド（資料配布）併用型

学年・コースをまたいだチームでの協働探究プロジェクトをオンラインで展開するため、Google Classroom を使用します。その一方

で、学年別の資料や成績評価に関わるレポートの提出は WebClass で行います。